

ありがとう六本松図書館：九大生の学びを支え続けて

九州大学附属図書館広報室

<https://doi.org/10.15017/1434346>

出版情報：2009-02. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

ありがとう 六本松図書館

— 九大生の学びを支え続けて —



六本松分館の閉館によせて

六本松分館長 有馬 学



六本松キャンパスの伊都地区への移転に伴って、附属図書館六本松分館もその歴史を閉じようとしている（移転スケジュールに変更があったため、2009年3月をもってすべての機能が消滅するわけではない）。

現在の六本松分館の建物は、附属図書館教養部分館として1980年2月に竣工した。それまではどのような状況だったかといえば、実に1923（大正12）年に建てられた旧制福岡高等学校の図書館、および改造して閲覧室として利用された、同じく旧制福高の講堂が図書館として使われていたのである。両者とも木造の建物である。

もちろん木造だったからといって、不当に馬鹿にされるいわれはない。旧制福高の学生であった壇一雄や大西巨人の読書欲を満足させる内容ではなかったのかもしれないが、それらの建物は歴史の一部として認識されるべきものであろう。それと同時に、決して長いとはいえないその歴史の中でも、分館の内容が量的にも質的にも確実に変貌を遂げてきたことを、いまこの時にあたってあらためて確認しておきたいのである。

たとえば図書以外の資料として、古くは旧制福高の玉泉大梁教授によって収集された旧玉泉館収蔵資料がある。玉泉館の取り壊しに伴って1987年に教養部分館に収蔵されるようになったものである。所蔵資料中の古文書を使って、学生を対象に、経済学部 秀村選三教授、松下志朗教授による「古文書を読む会」が続けられたことも記憶されるべきであろう。加えて、教養部教授をつとめた檜垣元吉名誉教授の旧蔵資料である檜垣文庫が1988年に分館に寄贈された。約3万点の古文書を中心に、多岐にわたる内容を持つ貴重資料であり、近年はメディアからの掲載依頼も増えている。これらのうち考古資料は箱崎キャンパスの総合研究博物館に、古文書等は同じく記録資料館に移管される。いずれも今後のさらなる活用が期待される場所である。

忘れてならないのは、1994（平成6）年に旧教養部が改組され、大学院比較社会文化研究科が設置されたことだ。この結果、六本松分館は大学院生および大学院教員の研究図書館としての機能をも担うことになった。意外に気づかれていないことだが、そのことは分館の内容に、かなり大きな変化をもたらしたはずである。

このように見てくると、いまその役割を終えようとしている六本松分館は、しかしまだその潜在能力が活用され尽くしてはいないことに気づく。これが発展的な解体であるためには、六本松分館が何であり、何であり得たかについて、私たちがあらためて思いをめぐらしてみることが必要なのではないか。

写真でたどる六本松図書館の歴史

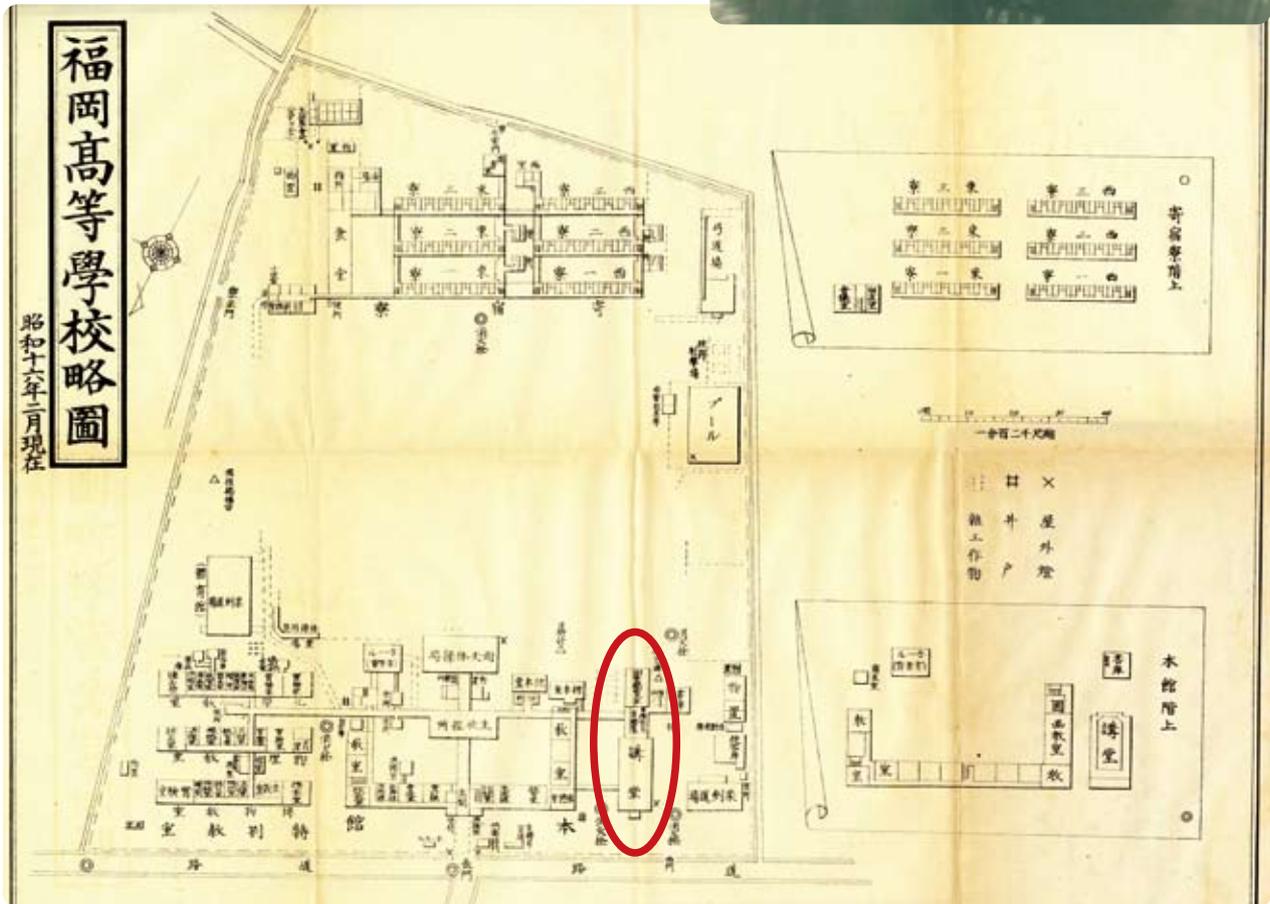
旧制福岡高等学校時代

(大正11年～昭和24年)

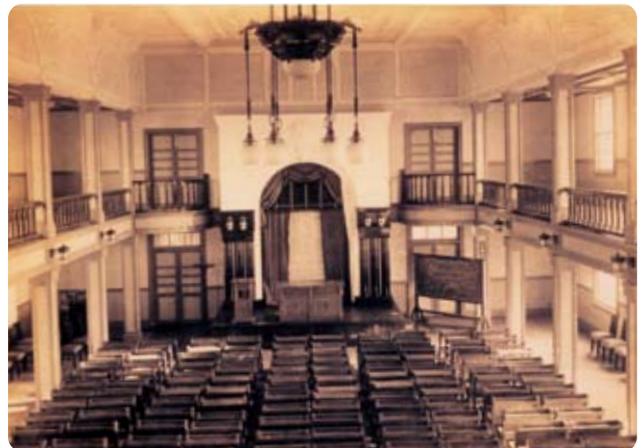
六本松図書館は旧制福岡高等学校図書室としてスタートしました。

旧制福岡高等学校

大正10(1921)年設立の旧制高等学校。
新制九州大学への改組後は教養部となり、
六本松キャンパスとして現在に至っている。



閲覧室(昭和10年ごろ)



講堂内部

旧教養部分館時代(昭和24~54年)

戦後、旧制福岡高校から九州大学分校となり、その後九州大学教養部となりました。旧制福岡高校時代以来のキャンパスに、当時と比べ7倍近い学生・教員がひしめきました。

第3分校に次いで第2分校が第1分校(旧制福岡高校)に統合され、学生の数が一気に数倍に増えた。図書館もそれまでの閲覧室だけでは座席数が足りなくなったため、隣接していた講堂に机と椅子を置いて新たに閲覧室とした。(昭和37年)



教養部航空写真(昭和38年)



講堂の閲覧室(写真は昭和54年)



旧教養部分館全景(昭和54年) 左上：書庫 左下：開架室 右：一般閲覧室(旧講堂)



講堂外観(昭和40年ごろ)



講堂と書庫(昭和40年ごろ)

新教養部分館の建設

昭和54年、旧教養部分館が解体され、同じ場所に新しい分館が建設されました。
平成6年の教養部廃止に伴い、教養部分館から六本松分館と改称され現在に至ります。

新図書館完成当時はロビーに灰皿があり、館内での喫煙が可能だった。
その後入口の外に喫煙室が設けられて館内は禁煙となり(平成7年)、平成19年には喫煙室も廃止され全面禁煙となった。



旧地学教室(昭和55年)



旧館を取り壊して同じ場所に新館を建築するため、工事期間の昭和54年1年間は旧地学教室にてサービス提供を行った。もともと、9割近くの資料は箱詰めで使用できず、雑誌と新聞、1割の開架図書のみ提供にとどまっていた。

完成当時の2階ロビー
(昭和55年)



新図書館の完成(昭和55年)

六本松図書館点描



奥田八二元教養部長
(元福岡県知事)
による書(2階ロビー)

秋吉文庫之碑
(6ページ参照)



旧制福岡高校時代からある日時計



正面入口の右側にある日時計は、旧制福岡高校時代から受け継がれてきたものである(昭和14年設置)。キャンパス内の建物が建て直されるたびに移動し、最終的に現在の位置に落ち着いた。



3階から見たロビー



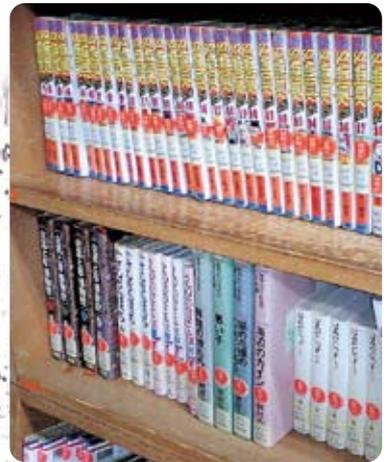
3階開架閲覧室



参考図書室(3階)



ブラウジングルーム南側の桜



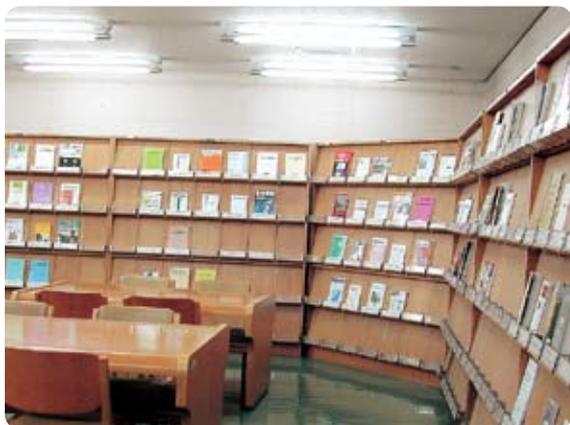
ブラウジングルームの漫画(2階)



書庫2層(中2階)



3階開架書架の新着図書コーナー



新着雑誌室(3階)



六本松図書館に伝わる代々の蔵書印
(蔵書印については15ページをご覧ください)

六本松図書館のコレクション

(詳細は16～17ページ)

玉泉館資料



左上：弥生土器 壺(福岡市西新)
 左下：ガラス勾玉(福岡県京都郡)
 右上：打製石鏃
 右中：中国宋鏡(中国)
 右下：細型銅劍(福岡県春日市)



玉泉大梁教授



15周年記念当時(昭和11年)の玉泉館

秋吉文庫



秋吉音治校長



秋吉文庫の碑

六本松図書館の南側に立つ。右は石碑に刻まれた文章。

大正十年秋吉音治先生福岡高等学校長ニ任ゼラルルヤ職員ノ銓考生徒ノ訓育等拮据創設ニ當リ爾來協力能ク質實剛健ニシテ獨自ノ校風ヲ確立シ愈々守成ニ邁進セラレシガ一朝病魔ノ犯ス所トナリ藥石効ナク遂ニ昭和十二年七月一日易簣セラル實ニ痛惜ニ堪ヘズ是ニ於テ同窓會ハ其ノ功績ヲ偲ビ記念事業ヲ計畫シ普ク會員ノ贊同ヲ求メシニ其ノ基金ニ千數百圓ニ達ス初メ銅像建設ノ企アリシガ時有史以來ノ事變ニ際會シ資料統制ノ重大國策ニ從フベキヲ慮リ更ニ熟議ノ結果圖書ヲ購入シ記念文庫ヲ設クルニ至レリ

昭和十四年十一月

福岡高等学校同窓會建之

檜垣文庫



豊臣秀吉直筆の書

豊臣秀吉が木下藤吉郎と名乗っていた頃、織田信長の奉公人として、あるトラブルに対し上使派遣を通知したもの。現存する秀吉文書としてはきわめて古いものと判断される。



熊の剥製

檜垣直右氏が村を開拓した功績を称え、北海道枝幸郡歌登村(当時)から檜垣家に贈られたもの。

濱文庫



濱先生自筆のくまとり図

くまとり(くまどり)とは京劇における顔面彩色。



戯劇関係電影スライド



京劇のレコード



戲単(京劇の番付)



六本松図書館の歴史

六本松図書館

明治	36年 4月	
	42年 9月	
	44年 1月	
	4月	
大正	10年 11月	旧制福岡高等学校(以下福高)が設立される
	11年 4月	福高が開校、福岡高等学校図書室が開設される
	5月	
	12年 8月	講堂、および図書閲覧室が竣工
昭和	2年	
	5年 3月	玉泉館が開設される
	6年	三苦家文書受け入れ
	16年 12月	
	17年	
	20年 6月	
	22年 10月	
	24年 7月	新制九州大学の設置(福高は九州大学第1分校となる)に伴い、九州大学第1分校図書室と改称
	25年 3月	
	28年 6月	
	30年 10月	九州大学分校への統廃合に伴い、第2分校(旧制久留米工業専門学校)図書室の蔵書を吸収し、九州大学分校図書室(通称教養部図書室)と改称
	31年 3月	2階建ての事務室、教官閲覧室、および3層の書庫を増築
	4月	図書の整理について福高方式をあらため、分類は日本十進分類法、目録記入は日本目録規則を採用
	7月	
	32年 12月	「教養部図書室」を「教養部図書分館」に改称
	34年 3月	九州大学附属図書館教養部分館を設置(初代分館長に石中象治教授が選出される)
	36年 11月	新たに業務主任を置き、図書掛を廃止して受入目録掛と閲覧掛の2掛制とする
	37年 10月	隣接していた講堂を学生閲覧室に改築
	38年 4月	指定図書制度を導入
	39年 4月	福高時代の図書を中心として、再分類作業5ヵ年計画を実施
	10月	
	40年	益田文庫受け入れ
	9月	複写室を図書館内に移転し、複写業務を開始
	43年 4月	
	6月	
	8月	再分類作業が終了
	44年	学生紛争で教養部本館封鎖、開架室が教養部事務部の仮事務室となる
	46年 3月	教養部分館漢籍目録を刊行
	47年 3月	三苦家文書目録を刊行
	5月	
	48年 3月	
	50年 3月	
	51年	
	9月	
	52年 6月	受入掛、目録掛、閲覧掛の3掛制となる
	53年	
	54年 4月	旧図書館の解体、および新図書館の建築に着工(その間、旧地学教室にて図書館業務を行う)
	55年 3月	新図書館が竣工
	4月	新図書館にて教養部分館が開館(全館開架方式)
	56年 4月	図書館業務に電算機を導入
		開館時間を平日20時まで、土曜日16時30分までに延長
	11月	視聴覚室の運用を開始

六本松図書館は前身の旧制福岡高校時代から数えると、医学図書館(京都帝国大学福岡医科大学附属図書館)に次いで九大の中で2番目に古い歴史のある図書館。

現在の六本松キャンパスの住所は、昔は大坪町(おおつばまち)1丁目だった。(昭和42年に六本松1~4丁目に編入)



閲覧室と日時計

全 館	全 学	世の中の動き
医科大学附属図書館設置	京都帝国大学福岡医科大学、同附属医院設置	
	九州帝国大学設置 京都帝国大学福岡医科大学が九州帝国大学医科大学となる	
九州帝国大学附属図書館設置		城南線(渡辺通1丁目～西新町間) 開通
		太平洋戦争勃発 西日本新聞発刊、関門鉄道トンネル開通 私鉄5社合併により西日本鉄道誕生 福岡市大空襲
九州大学附属図書館と改称、医学部中央図書室設置	九州帝国大学が九州大学に改称 第1分校、第2分校、第3分校 設置 福岡高等学校 廃止 第3分校廃止 第1分校、第2分校廃止 分校設置	記録的豪雨、大水害
文献複写業務開始 附属図書館医学部分館設置		三池争議
		東京オリンピック開催
広報誌「図書館情報」創刊	九州芸術工科大学 設置 米軍ファントム機、電算機センターに墜落炎上	
中央図書館封鎖		学生運動 福岡市、政令指定都市となる 沖縄本土復帰
新中央図書館オープン 理学部・農学部の図書資料を中央図書館へ搬入		山陽新幹線博多駅開業 天神地下街開業
教官に対する学内共通帯出券の発行開始		福岡大湯水 市内電車(西鉄福岡市内線)全線廃止(2月)
ネットワーク型図書館業務システムを国立大学で初めて導入		福岡市地下鉄1号線部分開業

六 本 松 図 書 館

昭和	57年	1月	相互利用サービスの開始	
		2月		
	60年		濱文庫受け入れ	
		4月	AV室の運用を開始し、グループ学習室を開設 白井文庫受け入れ	
	62年	3月	図書館と新一号館が渡り廊下で連結される 濱文庫目録を刊行	
		9月	玉泉館の解体に伴い、玉泉館所蔵史料を教養部分館に移転	
	63年	4月	檜垣文庫資料寄贈	
		8月	学術情報センターに目録データの入力を開始	
平成	元年	3月		
	2年		三上文庫受け入れ	
	3年	4月		
	4年	4月		
	5年		漫画文庫受け入れ開始(~H.13)	
		3月	檜垣文庫の一般公開を実施	
	6年		近代日本キリスト教新聞集成受け入れ	
		3月		
		4月	教養部の廃止に伴い、教養部分館を六本松分館と改称 入退館システムを導入 第2自由閲覧室およびグループ学習室を大学院生専用閲覧室に改装	檜垣文庫一般公開
	8年	3月	檜垣文庫目録を刊行	
		4月	休日開館(日曜日)を開始	
		6月	「檜垣文庫目録の編纂・刊行事業」が国立大学図書館協議会賞を受賞	
		9月	図書目録データの遡及入力開始	
	10年	2月		
		4月		
		5月	NACSIS-ILLによる学外からの現物貸借の受付を開始 学内校費による文献複写の受付を開始	
	11年	4月	休日開館(祝日)を開始	
		6月		
	12年	4月	情報サロンを開設し、パソコン端末16台を設置	
		5月		
	13年		城野文庫受け入れ	
		4月	情報基盤センター六本松分室が六本松分館内に開設される	
	14年	4月	第2情報サロンを開設し、パソコン端末16台を設置	
		7月		
	15年	2月		
		5月	「古文書・考古学資料」の公開展示	
		10月		
	16年	4月		
	17年	2月		
		3月		
		4月	図書情報係、レファレンス係、利用サービス係の3係体制となる	
		10月		
		11月		
	18年	4月		
		9月	伊都地区への直接移転が決定	
	19年	10月		
	20年	10月	「ありがとう六本松図書館」展示会開始	
	21年	2月	閉館	

全 館	全 学	世の中の動き
新医学分館オープン		
	言語文化部設置	
		アジア太平洋博覧会開催 雲仙普賢岳の噴火
医学分館無人開館開始 OPACサービス開始		完全週休二日制実施 福岡ドーム誕生
	教養部廃止 大学院比較社会文化研究科設置	
中央図書館の休日開館を実施		
		長野オリンピック開催
医学分館の休日(有人)開館を開始、無人開館を翌朝開館時まで延長		
		記録的豪雨、御笠川氾濫
大学院生以上を対象とした図書資料配送サービスを開始 筑紫中央図書室を開設	研究科を再編し、学府・研究院制度を創設	九州・沖縄サミット
筑紫分館設置		
中央図書館における一般市民等への直接貸出を開始 筑紫分館、RFIDタグを利用した図書館システムの運用を開始		
芸術工学分館設置 筑紫分館オープン、自動書庫導入	九州芸術工科大学と統合 国立大学法人化により、国立大学法人九州大学となる	地下鉄3号線(七隈線)開業 福岡県西方沖地震
文系合同図書室発足、記録資料館設置、きゅうとLinQサービス開始 理系図書館オープン	伊都地区開設	
九州大学学術情報リポジトリQIRを公開		耐震強度偽装問題発覚
中央図書館・芸術工学分館で早朝開館を開始		郵政民営化

データで見る六本松図書館の変遷

		昭和29年度 (1954年)	昭和33年度 (1958年)	昭和35年度 (1960年)	昭和37年度 (1962年)	昭和40年度 (1965年)	昭和45年度 (1970年)	昭和50年度 (1975年)	昭和53年度 (1978年)
	単位	第一分校	教養部分館 設置直前	教養部分館 設置直後	講堂を閲覧 室に転用				旧分館 最後の年
延床	m ²	251	787	787	—	—	—	—	—
席数	席	75	144	144	—	—	—	—	—
蔵書数	冊	44,452	61,316	67,286	75,768	93,178	125,297	167,000	197,000
和	冊	33,455	45,912	50,131	55,726	66,831	88,013	114,000	132,000
洋	冊	10,997	15,404	17,155	20,042	26,347	37,284	53,000	65,000
和雑誌	タイトル	72	319	337	112	126	625	552	618
洋雑誌	タイトル	116	78	89	123	206	370	441	499
資料費	千円	1,490	3,703	4,502	7,473	11,146	20,589	41,231	53,771
開架率	%	0.0	0.0	0.0	3.5	5.6	7.8	13.0	12.0
サービス対象学生数	人	—	4,171	2,658	2,965	—	4,277	4,507	4,558
職員数	人	4	7	8	12	14	9	15	15
年間開館日数	日	198	—	255	233	249	239	231	228
入館者数	人	10,545	13,495	9,834	10,680	115,445	—	—	—
貸出冊数	冊	1,386	7,103	5,287	6,662	6,968	11,535	6,000	—

歴代分館長（教養部分館～六本松分館）

氏名	所属	在任期間
石中 象治	教養部	昭34.3.16 ~ 昭36.3.15
徳永 新太郎	教養部	昭36.3.16 ~ 昭37.3.31
西尾 陽太郎	教養部	昭37.4.1 ~ 昭41.11.30
石蔵 甚平	教養部	昭41.12.1 ~ 昭44.3.31
濱 一衛	教養部	昭44.4.1 ~ 昭48.3.31
白水 隆	教養部	昭48.4.1 ~ 昭50.3.31
西原 忠毅	教養部	昭50.4.1 ~ 昭51.4.1
三上 正利	教養部	昭51.4.2 ~ 昭53.4.1
中村 正夫	教養部	昭53.4.2 ~ 昭57.3.31
上野 清太郎	教養部	昭57.4.1 ~ 昭59.3.31
村瀬 一郎	教養部	昭59.4.1 ~ 昭63.3.31
清水 孝純	教養部	昭63.4.1 ~ 平4.3.31
福田 殖	教養部/文学部	平4.4.1 ~ 平8.3.31
合山 究	比文	平8.4.1 ~ 平10.3.31
高藤 冬武	言文	平10.4.1 ~ 平12.3.31
押川 元重	大教	平12.4.1 ~ 平14.3.31
吉田 昌彦	比文	平14.4.1 ~ 平16.3.31
田島 松二	言文	平16.4.1 ~ 平18.3.31
有馬 学	比文	平18.4.1 ~

利用規程の変遷

昭和37(1962)年		
開館時間		
平日	9:00~17:30	
土曜日	9:00~13:00	
休館日	毎月1日、日曜日、祝日、 本学記念日	
貸出	冊数	期間
名誉教授、教授 助教授、講師	10冊	1ヶ月
教職員	5冊	1ヶ月
学生	2冊	7日間

- ・学生への貸出は火・木・土と夏季・冬季休業期間中のみだった。
- ・この頃は入館には閲覧券または学生証が、貸出には帯出券が必要だった。帯出券は1人に3枚発行され、1枚で図書1冊帯出可能だった。
- ・書庫には教官しか入ることができず、学生は職員に本を取り出してもらっていた。

昭和54年度 (1979年)	昭和55年度 (1980年)	昭和60年度 (1985年)	平成2年度 (1990年)	平成6年度 (1994年)	平成7年度 (1995年)	平成12年度 (2000年)	平成17年度 (2005年)	平成19年度 (2007年)
地学教室	現分館 オープン時			教養部廃止 比文設置				
—	5,155	5,155	5,155	5,155	5,155	5,155	5,155	5,155
39	665	668	724	—	724	724	728	728
206,000	216,000	256,118	296,000	340,000	353,938	409,827	449,587	458,207
138,000	143,000	167,957	190,000	223,000	232,937	269,283	296,702	311,247
68,000	73,000	88,161	106,000	117,000	121,001	140,544	152,885	146,960
656	707	1,017	1,117	899	899	1,243	1,173	2,864
539	581	549	580	586	586	567	477	1,702
58,551	66,203	60,171	65,120	100,201	97,068	104,435	64,495	62,937
73.0	72.0	74.0	74.0	78.0	78.0	76.0	82.2	82.4
4,627	4,718	4,883	5,329	5,471	5,285	5,012	5,226	5,207
16	17	14	14	19	19	16	14	13
221	217	247	254	248	246	318	347	351
—	—	268,870	270,032	—	191,054	217,307	215,759	210,095
11,800	9,500	21,210	26,587	34,300	34,600	37,277	41,914	51,261

「日本の図書館」「図書館年報」「九州大学附属図書館要覧」より

昭和41(1966)年		
開館時間		
平日	9:00~17:30	
土曜日	9:00~13:00	
休館日	毎月1日、日曜日、祝日、 本学記念日	
貸出	冊数	期間
名誉教授、教授 助教授、講師	10冊	1ヶ月
上記以外の 本学教職員	5冊	1ヶ月
分館長から帯出 許可を得たもの	5冊	1ヶ月
学生	1冊	8日間

平成6(1994)年11月	
開館時間	
平日	9:00~17:00
土曜日	9:00~12:30
休館日	毎月1日、日曜日、祝日、 本学記念日
貸出	
貸出に必要な ものは	図書館利用者票 (要交付申請)
図書の 貸出期間	15日間
逐次刊行物の 貸出期間	8日間
冊数	合計5冊

平成20(2008)年	
開館時間	
平日	9:00~20:00
土日祝	10:00~17:00
休館日	8月中旬の3日間、 年末年始
貸出	
貸出に必要な ものは	図書館利用者票 (学生は学生証、教職員は要交付申請)
図書の 貸出期間	15日間
逐次刊行物の 貸出期間	8日間
冊数	合計5冊
院生対象特別貸出	図書 10冊 3ヶ月
教員対象特別貸出	図書 20冊 6ヶ月

- ・学生が閲覧室で騒々しかったため、閲覧室への入室を、座席数を上限として制限。室内には静寂が戻ったが、入口には入室を待つ学生の長蛇の列ができた。(昭和42年)
- ・この頃は館内下駄履き禁止だった。(昭和40年代)
- ・学生への貸出が毎日可能となった。

- ・六本松分館となり規則の改正が行われた。
- ・学生と教職員の貸出冊数・期間が統一された。

日祝日も開館し、開館時間も大幅に拡大されている。

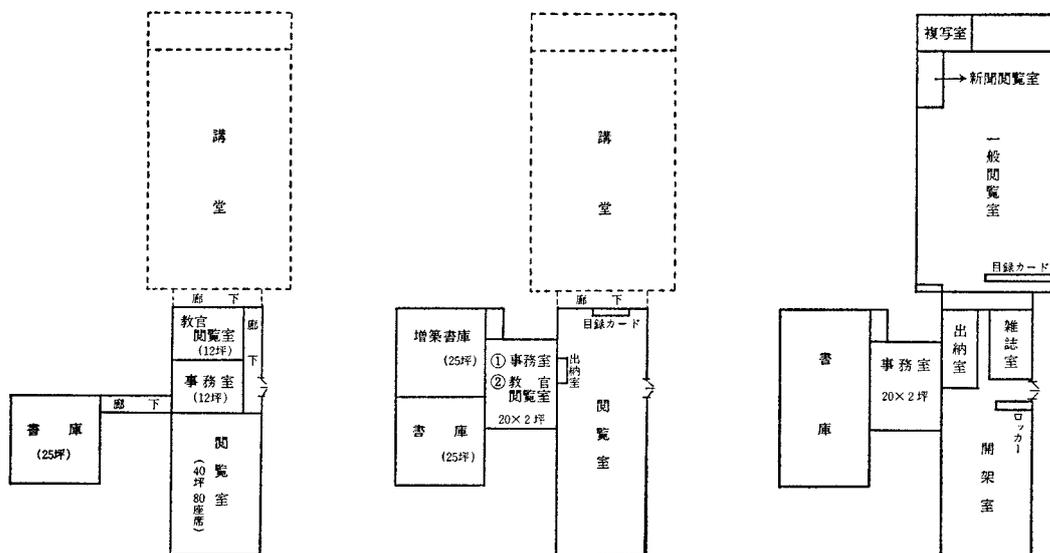
六本松図書館のテーマ別図書一覧

2007.5.1現在

0類 総記	1類 哲学	2類 歴史	3類 社会科学	4類 自然科学	5類 技術	6類 産業	7類 芸術	8類 言語	9類 文学	計(冊)
14,824	27,266	31,042	60,427	43,391	8,313	5,104	7,398	19,290	55,344	272,399

六本松図書館 建物の変遷

旧制福岡高校～旧教養部分館時代 (大正11(1923)年～昭和54(1979)年)



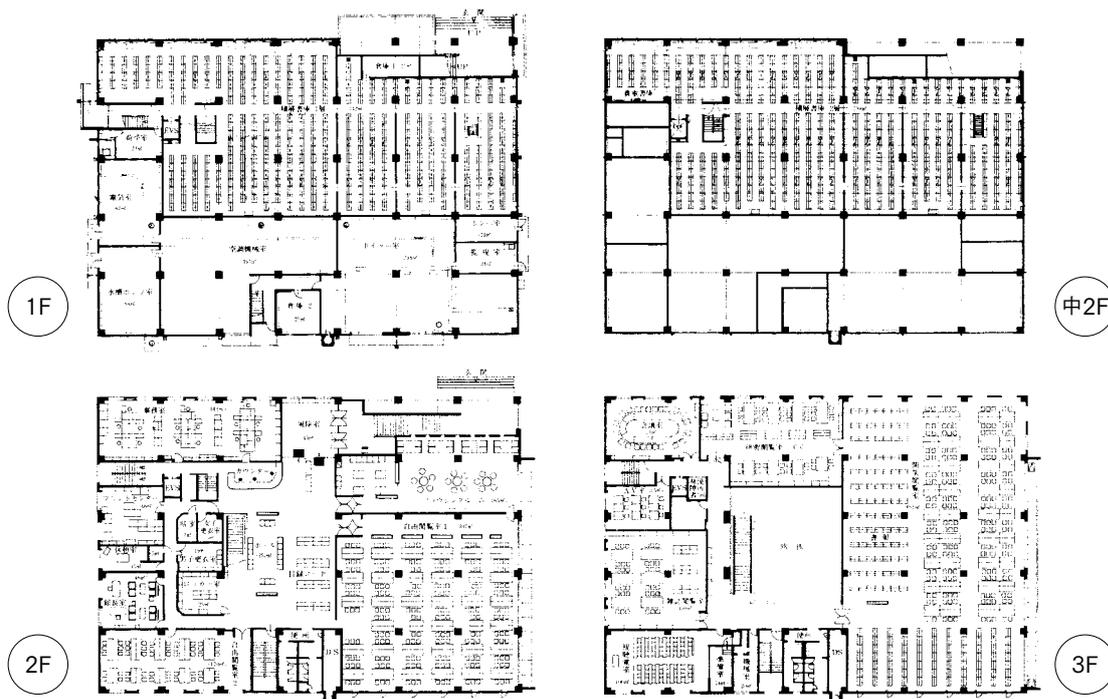
旧制福高時代(～昭和24年)
大正12年完成。当時は約35名の専任教官と600名たらずの生徒がサービスの対象だった。

九大分校時代
第3・第2分校と統合され書庫が狭隘化したため、1956年に2階建ての事務室・教官閲覧室と3層の書庫を増築。

1969年当時
学生の増加に伴う座席数不足を解消するため、隣接する講堂が一般閲覧室として利用されていた。

(「図書館情報」Vol.4, no.2より)

新教養部分館～六本松図書館時代 (昭和56(1981)年～平成21(2009)年)



開館当時の平面図

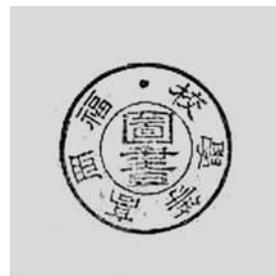
(「図書館情報」Vol.16, no.2より)

蔵書印で見る六本松図書館の歴史

旧制福岡高等学校時代

九州大学附属図書館六本松分館の歴史は、大正11(1922)年に開校した旧制福岡高等学校の図書室から始まります。

当時使われていた蔵書印が、右の角印と丸印になります。



九州大学第1分校時代

昭和24(1949)年、新制九州大学の設置に伴い、旧制福岡高等学校は九州大学第1分校となりました。

蔵書印も左の角印と丸印に変更されました。

九州大学分校時代

昭和26(1951)年、九州大学第3分校が廃止されました。

第3分校図書室の蔵書は、他の図書室から持ち寄せられたものでしたが、それぞれ元の配架場所に返却されました。

また、昭和30(1955)年には第2分校も第1分校に統合され、九州大学分校となりました。

第2分校、第3分校で使われていた蔵書印が、それぞれ右の角印です。



九州大学教養部時代

九州大学分校の時代から、既に教養部と通称され、左の角印と丸印が使用されていました。

正式に教養部が設置されたのは昭和38(1963)年のことです。

九州大学六本松キャンパス時代

平成6(1994)年、教養部が廃止されました。

このころには図書館でも電算化が進み、図書には蔵書印を押さず、右のようなラベルを貼付するようになっていました。

そのため、角印は実際に使用されることはありませんでした。



六本松図書館のコレクション一覧

○:九大所蔵データベース(OPAC)にて検索が可能

文庫名	概要	旧蔵者	検索
玉泉館資料 <small>ぎくせんかん</small>	玉泉館は九大教養部の前身である旧制福岡高等学校の教授、玉泉大梁氏の計画による歴史資料室。昭和5年、現在の六本松キャンパス内に開設、考古学資料約6000点、古文書類約4000点などを収蔵した。昭和62年に解体され、収蔵品は六本松分館に移設された。 - 貴重文物講習会「玉泉館史料について」(H19第4回:溝口孝司比較社会文化研究院准教授) - 総合研究博物館へ移転(平成20年9月)	玉泉大梁(たまいずみ たいりょう)(1886-1971) ・石川県出身 ・大正3年東京帝国大学国史学科卒業 ・大正11年福岡高等学校着任、考古・歴史資料収集開始、昭和21~25年九州大学講師 ・昭和25~40年福岡県史編纂	-
三苦文書 <small>みつく</small>	玉泉館資料の一部(古文書類の中核を構成)黒田藩怡土郡井原触大庄屋三苦家に由来(受入:昭和6年度) - 「三苦文書目録 : 九州大学教養部玉泉館所蔵/九州大学附属図書館教養部分館編(1972.3)」 - 記録資料館へ移転(平成20年9月)		
秋吉文庫 <small>あきよし</small>	先生の功績を偲び同窓会より募った基金を元に、図書を購入し記念文庫として納められた(和洋書合わせて350冊余) (受入:昭和18年度) - 伊都図書館へ移転(平成21年9月)	秋吉音治(あきよし おとじ)(1875?-1937) ・旧制福岡高等学校初代校長(在任:大正11年~昭和12年)。在任期間中に急逝し、福高運動場にて校葬が執り行なわれた	○
益田文庫 (古峯) <small>ますだ</small>	平戸藩の儒者楠本碩水の門人で中学修猷館の教師であった益田祐之(古峯)氏の旧蔵書(2090冊) (受入:昭和40年度) - 和装本は中央図書館へ移転(平成20年9月)、他は伊都図書館へ移転(平成21年9月)	益田祐之(ますだ すけゆき)(1866-1944) ・筑前秋月の人。修猷館教諭(明治33年~昭和5年)。担当は漢文 ・号:古峯	○(一部のみ)
白井文庫 <small>しらい</small>	白井正教授(教養部社会科学)の旧蔵書 入手困難な終戦直後の資料を含む憲法、政治学関係資料(2081冊) (受入:昭和60年度) - 伊都図書館へ移転(平成21年9月)	白井 正(しらい ただし)(1900-1984) ・昭和24年九州大学法律学担当助教授、昭和28年同教授(~昭和38年)	○
濱文庫 <small>はま</small>	濱一衛名誉教授(教養部中国文学、元分館長)がフィールドワークの過程で蒐集した中国戯劇関係資料。和漢書をはじめ、戯曲関係のパンフレット、切り抜き、レコード、写真、濱先生自筆の隈取り図等も含む特色あるコレクション(939点、約2500冊) (受入:昭和60~61年度) - 「浜文庫(中国戯劇関係資料)目録/九州大学附属図書館教養部分館編(1977)」 - 漢籍講習会「六本松分館所蔵の濱文庫について」(第1巡第5回:日下みどり(比較社会文化研究院教授)) - 貴重文物講習会「濱文庫について(1)」(H19第1回:落石清(当時の受入係長)) / 「濱文庫について(2)」(H19第2回:中里見敬(言語文化研究院准教授)、竹村則行(人文科学研究院教授)) - 中央図書館へ移転(平成20年9月)	濱 一衛(はま かずえ)(1909-1984) ・大阪府出身 ・京都帝国大学文学部卒業、昭和9年京都帝国大学文学部副手、北京留学(昭和9年から2年間) ・昭和24年九州大学教養部助教授、昭和28年同教授(~昭和48年) ・研究分野:中国演劇 ・「1930年代に中国に留学。フィールドワークの課程で、精力的に戯曲関係の資料を集める。戯曲に熱中するあまり、自ら役者のメイクや衣装を付け、舞台に立ったこともあるという。当時の研究者としては珍しい、生きた京劇のファンであった。」日下みどり(漢籍講習会, 2004)	-
山川文庫 <small>やまかわ</small>	山川丈平名誉教授(教養部ドイツ語)の旧蔵書 ドイツ文学、ドイツ語学関係資料 殊にドイツ語慣用句、諺など袖珍版辞書を多く含んだユニークなコレクション(405冊) (受入:昭和61年度) - 伊都図書館へ移転(平成21年9月)	山川丈平(やまかわ じょうへい)(1911-1983) ・昭和24年九州大学ドイツ語科助教授、昭和35年同教授(~昭和48年) ・研究分野:ドイツの慣用句や諺	○

文庫名	概 要	旧 蔵 者	検索
檜垣文庫 ひがき むら	<p>檜垣元吉名誉教授(教養部国史学担当)の旧蔵書。 中世から近代にまで及ぶ約3万点の古文書を中心に、 書画軸約300幅、和装本約2700冊、洋装本約2万冊、 さらには美術品・民具500点、雑誌200種、合計約5万 数千点に及ぶ、九州を中心とする歴史的総合資料群。 (受入:昭和63~平成元年度)</p> <p>—「檜垣文庫目録/九州大学附属図書館六本松分 館編(1996-2003)全6冊」 —貴重文物講習会「檜垣文庫について(1)・(2)」(H20 第1,2回:吉田昌彦(比較社会文化研究院教授)) —記録資料館へ移転(平成20年9月)、洋装本は伊都 図書館へ移転(平成21年9月) ※熊の剥製は総合研究博物館へ</p>	<p>檜垣元吉(ひがき もときち)(1906-1988) ※本名読み:モトヨシ, 通称読み:モトキチ</p> <ul style="list-style-type: none"> 山口県出身 昭和10年九州帝国大学法文学部卒業。 昭和24年九州大学教養部助教授、昭和33年同教 授(～昭和44年) 研究分野:北部九州を中心とする近世・近代の政 治社会文化史 「史料をして語らしめる手法をとりながら地方史の視 点に立脚しつつ、全体として近代史への展望を意識 した檜垣氏」高野信治(史学雑誌100-7,1991) 	○ (洋装本の のみ)
三上文庫 みかみ なみ	<p>三上正利名誉教授(教養部人文地理学、元分館長)の旧蔵書 日本、ロシア、ソ連、モンゴル、中国の地理、歴史、民族 資料(855冊) (受入:平成2年度)</p> <p>—「三上文庫目録/九州大学附属図書館六本松分 館編(1995)」 —伊都図書館へ移転(平成21年9月)</p>	<p>三上正利(みかみ まさとし)(1914-1989)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和25年九州大学第三分校助教授、昭和26年第 一分校～教養部、昭和37年同教授(～昭和53年) 研究分野:西シベリア開発の歴史地理学的研究、 蒙古・新疆地域の研究 	○
長屋文庫 ながや や	<p>長屋代蔵教授(教養部ドイツ語)の旧蔵書。 ハーマン関係、シラーとドイツ演劇関係資料(565冊) (受入:平成3年度)</p> <p>—伊都図書館へ移転(平成21年9月)</p>	<p>長屋代蔵(ながや だいぞう)(1930-1990)</p> <ul style="list-style-type: none"> 岐阜県出身 南山大学文学部卒業、東京都立大学大学院人文 科学研究科修了 昭和41年九州大学教養部助教授、昭和50年同教 授(～平成2年) 研究分野:シュトゥルム・ウント・ドラング期文学、特 に演劇研究 	○
漫画文庫 まんが ぶんこ	<p>日下翠教授(比較社会文化研究院)「漫画学」授業用 資料(4684冊) (受入:平成5~13年度)</p> <p>—伊都図書館へ移転(平成21年3月)</p>	<p>日下翠(くさか みどり)(1948-2005)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪府出身 神戸市外国語大学卒業、同修士課程修了。東京都 立大学大学院博士課程単位取得。文学博士 平成6年九州大学比較社会文化研究科教授 研究分野:中国の戯曲・小説、漫画学 	○
志垣文庫 しがき よしお	<p>志垣嘉夫名誉教授(教養部西洋史/比較社会文化研 究院)の旧蔵書。 フランス近世史関係資料(992冊) (受入:平成9年度)</p> <p>—「志垣教授寄贈図書目録:フランス近世史関係/九 州大学附属図書館六本松分館編(1997)」 —伊都図書館へ移転(平成21年9月)</p>	<p>志垣嘉夫(しがき よしお)(1940-1997)</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊本県出身 昭和49年九州大学教養部助教授、昭和59年同教 授。平成6年比較社会文化研究科設立とともに研 究科長に就任 研究分野:フランス近世史 	○
城野文庫 じょうの せつこ	<p>城野節子名誉教授(教養部フランス語)の旧蔵書(107冊) (受入:平成13年度)</p> <p>—貴重書は中央図書館へ移転(平成20年9月)、他は 伊都図書館へ移転(平成21年9月)</p>	<p>城野節子(じょうの せつこ)(1914-2002)</p> <ul style="list-style-type: none"> 満洲出身 九州帝国大学法文学部仏文学科卒業 昭和26年九州大学教養部助教授、昭和41年同教授 九州大学で女性初の教授。福岡女学院短大教授も務めた 	○
近代日本 キリスト教 新聞集成	<p>明治・大正・昭和戦前期における日本のキリスト教新聞を集成したもの。キリスト教及び外来思想の受容史のみならず、日本近代の宗教史、思想史、政治史、社会史、文化史研究にとって貴重な資料。マイクロフィルム版 (受入:平成6年度 大型コレクション)</p> <p>—伊都図書館へ移転(平成21年3月)</p>		○

六本松図書館のコレクションから

玉泉館 甘棠館扁額と亀井昭陽肖像

甘棠館 (かんとうかん)

福岡藩にあった藩校。当時福岡藩には東西両学問所（東学・修猷館、西学・甘棠館）があった。

西学甘棠館は郭外唐人町（現・唐人町バス停北側）に設けられ、儒学者亀井南冥^{なんめい}（1743-1814）が学頭となり、徂徠学を主とした。

寛政10年（1798年）2月1日に発生した唐人町の大火により類焼し、以後再建されることなくわずか14年で廃校となった。



ブラウジングルームに掲げてあった甘棠館扁額



亀井昭陽^{しょうよう} (1773-1836)

亀井南冥の長男で、父の後を継ぎ福岡藩儒となった。

「甘棠館」の書と「亀井昭陽肖像」は昭和20年代後半に玉泉館の経費で亀井家から購入され、玉泉館の解体に伴い、六本松図書館へ移設された。

※参考文献：福田殖「『甘棠館』扁額と亀井昭陽肖像」
(九大教養部報 No.64, 1980.10)

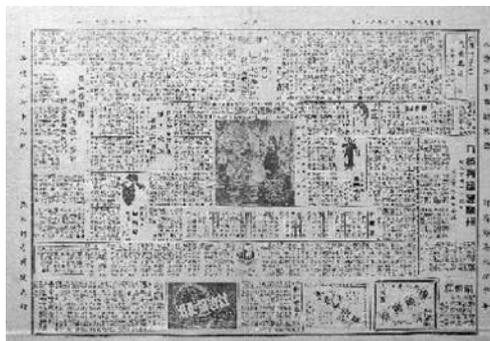
濱文庫 濱文庫の京劇戲単 (京劇の番付)

中国演劇の研究者であった濱一衛・元教養部教授（1909-1984）は、「京劇オタク」だったようです。1934年から2年間の北京留学中に濱先生が収集した「京劇グッズ」のなかには、京劇の戲単が200枚近くもあります。俳優名と演目が印刷されたカラフルな戲単は、ふつうなら芝居が終わるとともに捨てられるものですが、濱先生はこれを丹念に収集しているのです。

1937年以降、北京は日本軍により占領され、戲単にも「日華携手和平乃現、亜陸同春国運更新」といったスローガンが印刷されています（右図）。京劇の戲単にも戦争が影を落としています。



廣和楼の木活版刷りの古風な戲単
(1935年10月14日)



新新大戲院の戲單(裏面)
(1939年2月22日)

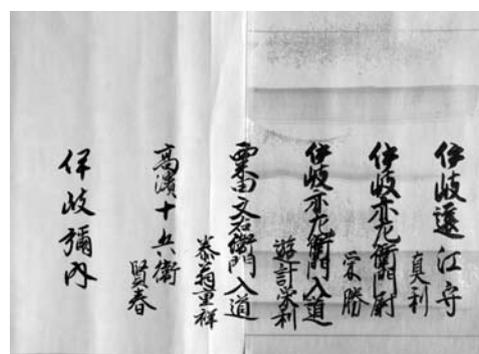
この時期の戲単は、戲報と呼ばれる新聞形式へと発展し、劇評や時事ニュース、広告なども掲載されるようになりました。

(言語文化研究院 中里見敬)

「伊岐流鎗術」は、1500年代の後半に伊岐遠江守真利によって創始された鎗の流派であり、遠江守真利の子である伊岐又左衛門栄勝が黒田家に招かれたことで福岡藩に伝わったようです。その後三代目の伊岐遊計栄利に子がなく伊岐家は絶えてしまいますが、藩内ではその弟子たちにより数十年の間流儀の技が伝えられていきました。そして1700年代の後半に、伊岐流鎗術の技を受けついでいた一人、草場弥助が藩から鎗術師範として取り立てられたことを機に、新たに名を「伊岐弥内栄澄」と改め伊岐家を再興し、以後伊岐家は福岡藩のなかで伊岐流鎗術を「家業」として代々伝えていくことになりました。

檜垣文庫の伊岐家関係文書には、上に紹介した免許目録のほか、流祖遠江守真利から代々の由緒書、伊岐弥内となった草場弥助が譲り受けた伊岐家秘伝の品々の目録、多くの藩士が入門に際して代々の各師範に提出した起請文などがまとめて収集されており、伊岐流鎗術というひとつの武術流派がどのように代々受けつがれていったかを伝えるとともに、当時の藩士たちの日常生活の一面をうかがい知ることのできる史料にもなっています。

なお、檜垣文庫には福岡藩の「分限帳」（当時の藩の職員録のようなもの）も多数収集されています。各時代に作成されたこれらの分限帳などを調べたり、附属図書館に所蔵されている『新訂黒田家譜』『福岡藩分限帳集成』などをはじめとする図書資料や公共図書館、博物館の収蔵古文書目録などを丹念に調べていけば、今回紹介した史料に登場した人物たちの動きをさらに追っていくことも可能でしょう。



伊岐流鎗術目録(部分)

技はその名称だけが記されており、詳細については「口傳(師から弟子へ口頭で直接伝授する)」とあります

(六本松図書館 図書情報係 松石健祐)

漫画文庫

～押川元重分館長（文庫設置当時）からのメッセージ～

六本松図書館の漫画本コーナーがどうなるのか気に掛かります。漫画本コーナーは漫画文化を研究されていた故日下みどり先生の研究費で購入された漫画本がもとになって設置されたものです。「数万人を満足させている純文学と比較するとき、漫画本は数千万人の心を引きつけている日本が創造した新しい文化である」という日下先生の主張に納得しながらも、私は漫画本を読む力を備えていませんので、図書館を利用する学生が増えるきっかけになればという思いのもとで設置を提案し、「大学図書館に漫画本を置くのは恥ずかしい」等の反対もいくらかありましたが設置を認めていただきました。結果は、それまで試験期間中だけ満席であった図書館の利用者が急増しました。それは漫画本コーナー以外にも波及しました。大学図書館は学習研究のためにあるという本論がありますが、学習研究についても「心」を放置したのでは豊かに花開かないと思います。もちろん、漫画本なら何でも良いとは考えません。

(閉館にあたり押川元分館長よりメッセージを頂きました)



ありがとう六本松図書館

— 九大生の学びを支え続けて —

平成21(2009)年2月発行

編集 九州大学附属図書館広報室
発行 九州大学附属図書館
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
電話 092-642-4264
印刷 城島印刷株式会社

